

第8回災害対策本部会議における知事コメント

今回の会議より、県の「災害対策本部会議」と「政府非常災害現地対策本部」の会議が合同で開催されることとなりました。津島現地対策本部長をはじめ、各省庁の皆様には、早い段階で熊本にお越しいただき感謝申し上げます。

平成28年の熊本地震の際にも、国の皆様には大変スピード感を持って対応していただきました。今回も国と県、市町村、関係機関が力を合わせ、復旧・復興を成し遂げて参りたいと思いますので、引き続きの力強いご支援をよろしくお願い致します。

地震発生以降、県では、人命救助を第一に、被災者支援に全力を挙げて取り組んでいるところですが、喫緊の課題は「水」への対応です。午前中の本部会議でもお知らせしましたとおり、国・県合同による「給水支援本部」を立ち上げ、供給量の不足やミスマッチの解消を進めております。まずは、緊急性の高い施設を中心に給水計画を進めていくとのことですが、住民の身近な範囲まで給水支援が行き届くよう、現地応急給水支援本部と連携の上、引き続きの対応をよろしくお願い致します。

また、小泉防衛大臣からご発表いただきました「はくおうⅡ」を活用したホテルシップ運用についても、住民ニーズの高い「入浴支援」を最優先に、「八代港」で実施したいと考えています。現在、専門のチームを県庁内に設置し、防衛省との協議を進めております。近日中に、利用開始の日程などをお知らせしたいと考えております。同様にホテル・旅館を活用した二次避難についても早期の募集開始を行うべく観光・福祉の関係部局が連携して対応してください。

さらに、西部方面総監部からご報告がありましたが、天草沖に展開している護衛艦「いせ」から海上自衛隊のヘリにより八代総合運動公園へ、陸上自衛隊のオスプレイにより高遊原分屯地に食料や生活物資などを輸送いただいているとのことでした。

被災地は多くの車両で交通渋滞が激しくなっていることから、こうした海・空（かい・くう）を活用した輸送は、より迅速に被災された方々に物資を届けることにつながると考えています。

生活支援については、本日、八代市内の運送会社の倉庫をグランメッセ熊本に続く県南地域の物資集積拠点として開設しました。これによって、八代・氷川県南地域の支援物資がより多くより早くより確実に届くことを期待します。

地震の発生から、72時間（3日）が経過しました。今後は、「人命救助」のフェーズから、「被災者支援」にシフトしていきます。日々変化していく被災者支援のニーズがこぼれ落ちることがないように、各部局ですき間を埋める連携が非常に重要です。

特に、県各部長及び政府各省庁の皆様においては、これまで以上に「横の連携」「新たな課題への積極的な対応」を肝に銘じ、この震災対応に全力を尽くしていただきたいと思います。

県民の皆様へ、明日からは、発災後初めての週末を迎えます。

被災され避難所で生活をされている方や、車中泊の方、また、毎日続く猛暑の中で被災した住まいの片付けをされている方など、不安や疲労が蓄積していると思います。

令和8年（2026年）7月31日16時00分

防災推進課

私からのお願いですが、体調に変化があった場合は、遠慮なく、避難所のスタッフや医療機関等にご相談ください。また、水分をこまめに取り、絶対に無理はされないようお願いします。

この難局を一緒に乗り越えて参りましょう。よろしくお願いします。